

埼玉県教育委員会教育長賞

越谷市立北中学校 三年 小野寺 葵

大きな花を咲かせるには

ある人が、土に種を植えた。大きな花を咲かせたい。しかし水が無ければ、種は発芽することもできない。だが一人では大変そうだ。さて、こんなとき、あなたはどうすれば良いと考えるだろうか？

二〇二〇年四月七日、東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の七都府県に緊急事態宣言が発令された。新型コロナウイルス感染症一。私たちの生活は、ここから一変した。

私は当時小学五年生だった。学校から帰宅した途端、明日からの休校を母に告げられた。あまりにも急すぎる事態に、日本中が驚いたことだろう。そんな中、国から国民一人当たり十万円が給付されることになった。その早さ、なんと緊急事態宣言が発令された日から約二十日である。しばらく経つと、新型コロナウイルスのワクチン接種も始まった。私もワクチンを打ちに行ったが、一つ疑問に思ったことがある。それは、「お金が掛からない」ということだ。本当だったらワクチン接種には高額なお金が掛かるはずである。総額十二・六兆円という給付のためのお金もそうだ。誰が用意しているのだろう。興味を持った私は父に尋ねてみた。すると、それらは「税金」で賄われているということが分かった。

税金。それは私にとって、得るものではなく払うもの、という印象だった。普段の生活で買い物をすれば、消費税は付き物だ。そう考えてしまうのも無理はない。しかし税金は、実は普段から必要なときに必要な形として、私たちの元に返ってきているのだ。例えば、医療費や道路整備、教育費、年金などが身近な例であるが、これでもほんの一部だ。そして、公共用物には税金が使用されているため、“壊れていたり、不便だったりするが一人の力では直せない”というものも私たちが少しずつ払い、国民で納めた巨額のお金のおかげで直すことができるのだ。新型コロナウイルスへの国民の予防や治療も、税金があったからこそ実現できたのだと考えると、私たちの生活にとって税金は欠かせないものなのだと私は思った。

花を国とし、水は税金としよう。花を咲かせるのに、水は欠かせない。水を与えれば、花が咲く。では、水を与えるものは何か。それは「国民」だ。国民が税を納める、つまり種に水を与えることで花が咲く。政府だけが国を造るのではない。大きな花を咲かせるためには、国民一人ひとりが協力する心を持つことが大切なのだ。

大人になるにつれ、納める税は増える。しかし、大きな花を咲かせれば、植物が酸素をとどけてくれるように、国は私たちにもっと住みやすい環境を整えてくれるはずだ。私は日本国民として、これからあらためて税に感謝し、税の大切さを後世に伝えていきたいと思う。